

新型コロナウイルス感染症パンデミック下における不整脈治療

一般社団法人日本不整脈心電学会

理事長 清水 渉

同 COVID-19 対策ワーキンググループ

里見 和浩、渡邊 英一、高月 誠司

深水 誠二、岩崎 雄樹、竹内 大二

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は第3波を迎え、新規感染患者数、死亡者数とも増加の一途を辿っています。今回は都市圏のみでなく全国各地で流行が広がり、感染の流行地や大きなクラスターが起きた医療機関では、COVID-19 の対応のため不整脈治療を含め通常診療にも多大な影響が出ております。

一方で、4月の感染拡大下においては、必要な不整脈治療を延期したことや受診控えなどにより、病状が悪化した例も報告されており、COVID-19 への対応と、不整脈治療のバランスを考慮して診療に当たる必要があると考えます。日本不整脈心電学会では、2020年5月22日に「不整脈手技における新型コロナウイルス感染症対策に関する提言」を行い、地域の感染状況、疾患の重症度、医療資材の充足度を施設ごとに勘案し、不整脈治療を適切に行うことを学会ホームページ上で提言致しました。デバイス診療においては、遠隔モニタリングを積極的に活用することも推奨しております。

今後の感染の見通しは不透明ではありますが、現在の状況においては、この提言に沿って慎重に不整脈治療に従事いただくことをお願いいたします。患者、医療従事者、関連業者の感染予防に引き続きご留意いただき、特に感染の流行地におかれましては、不顕性感染に十分注意しながら、必要に応じて医療施設間での連携も取りつつ、不整脈治療を行っていただきますようお願いいたします。